

我ら 50 期 ここにあり

砂鉄と刀(中) ～課題・提出物・試験について～



そのような現実の厳しさに気付かないで、または気付かない振りをして、全力で試験に挑まなかったり、問題も読まないで答えを丸写ししたりしては、成績や入試がどうのこうのというより、自分の目の前にあることに全力を傾け切るという態度が身につかず、何をしても中途半端な人間になってしまうのです。素質や性質というものは、まだ単なる可能性に過ぎないのであって全てがそうなるとは言いきりませんが、例えば刀の材料である砂鉄としての性質はいかに優秀だったとしても、それをもって敵を斬る訳にはいかないでしょう。つまり敵を斬るには、これを鍛えて刀とし、さらにはこれを研ぎ、さらに鍔(ツバ)をつけ鞘(サヤ)に入れなければ、これをもって敵を斬り、刀としての威力を発揮する訳にはいかないでしょう。



ボクがボクであるために

保証書や免許証などの「本人であることを証明するカード」のことを ID カードというが、ID は「アイデンティティ」の略。ひと言でいえば「自分自身であることの証明」という意味だが、精神分析でいう「アイデンティティ」とは、カードや第三者による証明ではなく、あくまでも自分の内的な実感による証明である。「アイデンティティ」という考え方は、心理学者のエリクソンによってつくられた。人間は幼児期(2～3歳)の段階でアイデンティティの基礎を築き上げる。鏡に映った顔を自分の顔であると認識することができ、自分が他人とは別個の人間であるという感覚を持つようになる。しかし、それだけでは「自分が誰であるか」がわかっただけである。アイデンティティは「自分はどのようなものであるか」を定義しえたときにはじめて確立するのである。その困難な作業は、青年期に課せられる。

「心構え」はできていますか？

ある1つの考え方です。

☆ “心”とは何か？ = 癖(くせ)のかたまり

自分の心というものは、もって生まれたものではなくて、思い通りに変えることができる！

- ・小さな癖をちょっとだけよい方向へ変えていけばいいだけ
- ・口癖を変えると劇的に心が変わってくる。
- ・マイナスの口癖(だるい・しんどい・うっかしい・だって～やもん・でも・～むかつくなど)は周りで聞かされている者にも伝染する。
- ・逆にプラスの口癖(ありがとう・がんばる・できる・あきらめないなど)を意識的に言っていると自分も周りも心が強くなる。
- ・意識的にプラスの口癖を習慣化することで、なりたい自分になれる。

☆ なぜ言い訳をするのか？ → 失敗するから

- ・なぜ失敗するのか？ → 準備ができていないから
- ・なぜ準備ができていないのか？ → 構えができていないから
- ・どのスポーツでも構えができていなければ、反応できずに失敗するのと同じ原理
- ・日常生活においても構えがある、それは何か？

→ **心構え** (日常生活での構え) 人間は気がつかないうちに、自然に心で構えている。



授業補填を行います

6月2日・3日に月曜日の時間割りで授業を行います。その総合の時間を授業で補います。各クラスで時間割が異なりますから、忘れ物がないように確認しておいてください。

《6月2日・3日：月6限総合の授業》

クラス	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
授業	社会A	理科	音楽	英語	理科